

## タマゴタケは、帝王のきのこ



文と写真◎ 根田 仁 Neda Hitoshi

前 研究ディレクター  
(生物機能研究担当)

タマゴタケ(卵茸)

(Amanita caesareoides)

食用きのこ。柄の下部は、  
だんだら模様になっている。

タマゴタケは、きれいなきのこです。夏から秋に広葉樹および針葉樹の林に発生します。幼菌の時は白い卵状ですが、袋の上を破って、赤または橙黄色から黄色の傘、黄色のひだ、だんだら模様の柄のきのこが出てきます。柄の根元には白い袋状のつぼが残り、傘の周辺には条線の模様があるのが特徴です。傘は20センチメートルに達することもあつてかなり目立ちます。とても美味しいきのこで人気が高いのですが、ベニテングタケなど似た毒きのこもあり、注意が必要です。

江戸時代の数種の菌類図譜にも「卵茸・鶏卵菌」として幼時の卵形の図が掲載されています。赤い傘の色が毒々しいためか、「小毒あり食うべからず」(坂本浩然「菌譜」1835年)と記されているものもあります

が、「味は甘美という」と載っている文献もあります。美味しいきのことして当時から認識されていたようです。

日本のタマゴタケは、1900年に初めて学術的に報告され、ヨーロッパに分布するAmanita caesareaと同種とされました。このきのこは「帝王のきのこ、カエサル

のきのこ」とも呼ばれ、美味しいきのことして食べられています。しかし、その後タマゴタケは東南アジアのA. hemibaphaとされてきました。さらに、近年に至りロシアの沿海州に分布するA. caesareoidesであることがDNA解析の結果から明らかになりました。

近縁種には、キタマゴタケ、チャタマゴ米にはA. jacksoniiなどが分布しています。これらの種は、互によく似ていますが、別種なのか？ それとも同じ種の変異なのか？ 興味のあるところです。◆



タマゴタケ(幼菌)

白い卵状のつぼから、きのこの傘  
が顔をだしたところ。

ベニテングタケ

毒きのこ。傘の上の白い鱗片が特徴だが、とれてしまったものは、タマゴタケにそっくりになる。



この印刷物はグリーン基準に適合した印刷材料を使用し環境配慮されたグリーンプリンティングシステムで印刷されています。

19.06.10000

リサイクル適性の表示：紙ヘリサイクル可